

2018 年度認定こども園旭幼稚園関係者評価

評価年月日 2019 年 6 月 18 日

評価者名 (小野晃男・備前孟秋・丸山敏枝)

評価項目	評価 (本園の行った自己評価の内容についてご意見、ご感想を自由に記述ください。)
1-ア	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を共有するために、日ごとの朝と保育後の教師会に加えて、金曜日の保育後に「のぞみ会」がもたれるようになったことについて評価できる。 ・担任のみならず、保育者それぞれが子ども一人一人に関わる旭の保育をより充実させる。そのためにも継続が肝要。 ・子どもの動きを中心に保育のあり方を検討する機会として、互いに健闘しつつ、保育の実践を通して保育者の立ち位置を見直す上でも必要なことである。 ・記録に合わせて実践のまとめを客観的に残す試みが是非とも必要。 ・保育者同士で意見を述べ合うことを通して内に開かれた職場環境で、開かれた保育を期待する。 <p>改定保育指針のポイント 幼児期の終わりまでに育ってほしい【10の姿】について 縦割り構成の自由保育を是とする当園の保育の立場では、子どもの成長(心の育ち)を、総合的な観点から捉えようと願っている。従って、その子の動き、成長の度合いなどの検討を加えるときの視点として、10項目を念頭に置いて扱えば良いのではないか。</p>
1-イ	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り保育の良さ、年齢ごとの活動の良さ、双方が取り入れられて良い活動だった。園児一人一人に対して、保育者全員で共通理解を持つことを大切にし、お互いに情報交換を行うタイミング、場、を積極的に気楽になされるよう期待しています。
1-ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会はもう少し参加者が増えるといい。保護者の気になっていること、知りたいことが聞ける会になると思う。 ・その子どもさんの具体的な姿を、どのように保護者に伝え、共有し、理解し合うかを、工夫し、努力することが重要である。 ・出来たら、保育者が交替で、保育実践を通して経験化・社会化を積み重ね変容していく子どもの生の姿を語ることにより、当園の良さが、一層わかってもらえると思う。
2-ア	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なものの優先度を考えて、充実して行ってほしい。 ・感覚統合的な視点から、活動が体ごと動かせるような遊びの活動や場を工夫して、肌を通して子どもの情感を豊かにする試みが大切に思える。 <p>〈体表現活動の一例〉大きなシートを敷いた上で、水泳パンツの姿でペインティング。透きとおった板を使って、色の付いたのりを手を使って体ごと描く。</p>
2-イ	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはしも(押さない、走らない、しゃべらない、戻らない)」など、子どもたちは訓練のことをよく覚えているようだ。子どもたちのあこがれ、好きなものである、消防士や、消防車、パトカー、警察官などにもご協力頂いて、引き続き訓練を行ってほしい。 ・引き取り訓練など現代的状況に応じた訓練、避難用具の購入など、継続していくことが大切だと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・集結場所を大木のケヤキをシンボルにして避難する行動が行えるよう、習慣的態度化を図るべし。子どもの普段の様子を見ると集団的行動が身についており、このことから徹底可能と考える。（庭の自由遊びに入る前に、勝手に動き出さないで、合図があるまで全員が待っている様子）
2-ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康上、全職員が設備を理解して使用するよう周知をすることが必要。 ・新しい設備については、これからも適宜検討をお願いしたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・こひつじ広場の2グループは良いと思います。 ・園児を中心に、保護者と保育者の三者の願い、教育的効果のいっそう充実の充実を期待します。 ・2グループに分けての実践を資料としてまとめ客観的に残して、次に生かすと良い。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・のぞみ会での課題と、小野先生の園内研修がかかわり合って深められていくようにと願います。 ・実践者同志が子どもの具体的な姿を前にして、吟味検討を加えることが保育の資質を高めていく上での何よりの方途であると思える。是非「のぞみ会」の充実を図って欲しいと願う。〈模造紙にその子のエピソードを1. 2, 3・・・回分を色別に記入しながら全体像を検討するやり方もある。この時に、指導要領の10項目を念頭に分類するとよい。〉
5	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡会が密に図られていることは、小学校へ入学したあとも、幼稚園の先生の見守りがあることであり、子どもにとっても親にとっても心強い。 ・小学校の先生方も、低学年に対して理解の仕方が様々で、面談などでご苦労されると思うが、相互理解をして、その子どもに、より良い方向での教育がなされるよう願う。 ・個人的不適応・集団不適応の傾向が子どもさんにとっては、環境の変化に適応することが大変むずかしく、十分な配慮が必要となる。事前に保護者との理解を図った上で、できるだけ具体的な情報提供をし、受容しながら信頼関係の形成が重要。

<p>本園の行った自己評価について、上記以外のご意見、ご感想がありましたら記述ください。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは先生方のことば、聖書のお話をよく聞いています。今はわからなくとも、いつか大きくなった時にふと思い出して、そのことばがその子の支えになる日が来るのではないかと思います。 ・シフト勤務はむずかしいと思うが、申し送りが十分なされるよう願います。 ・自己点検評価で十分出来ていなかったことについては、教師会などでも話し合い検討することが望ましい。 ・保育の質を高めるためには、保育者自身の子どものを見る眼、視野を広げる努力を積み重ねねばならない。それがなければ、子どもの創造性を引き出すことにつながらない。それを具体化するための自分なりの手の内をどう追求し築くか、その一方途が「のぞみ会」で、視野を磨く場となり、従って今後も怠らぬ一層の充実を図って欲しいと願います。